

令和2年度厚木市総合教育会議第1回会議 会議録

- 1 日 時 令和2年7月6日（月）午前10時から11時45分まで
- 2 場 所 厚木市役所本庁舎3階 特別会議室
- 3 出席者 小林市長、曾田教育長、杉山教育長職務代理者、門田教育委員、森教育委員、山本教育委員
- 4 事務局 政策部長、企画政策課長、教育総務部長、教育総務課長、学校施設課長、学校教育部長、学務課長、教育指導課長、社会教育部長、社会教育課長
- 5 傍聴人 1人
- 6 案 件
  - (1) 令和2年度総合教育会議について
  - (2) 令和3年度からの教育大綱について
  - (3) 新型コロナウイルス感染症対策に伴う課題について
- 7 会議資料 別紙のとおり
- 8 会議概要（議事進行：小林市長）
  - (1) 令和2年度総合教育会議について  
今年度の総合教育会議で扱う事項等について、企画政策課長から資料1に基づき説明。

**【企画政策課長】**

（資料1のとおり説明。）

**【各委員】**

（意見なし）

**【小林市長】**

・異議なしとして、今年度扱う事項については、資料のとおり進める。

(2) 令和3年度からの教育大綱について

現行の厚木市教育大綱が令和2年度に満了を迎えるため、令和3年度を始期とする新たな教育大綱の策定について、企画政策課長から資料2に基づき説明。

【企画政策課長】

(資料2のとおり説明。)

【杉山委員】

- ・基本目標に加わった【支える】の説明には納得した。
- ・基本方針1にある【笑顔で子育てできる環境】、基本方針2の【先進的な教育】、【いつでもチャレンジできる環境】、基本方針5の【快適に学べる質の高い学習環境】とはそれぞれ具体的にどのようなイメージか。

【企画政策課長】

- ・基本方針1の【笑顔で子育てできる環境】とは、現大綱でも【子育てに誇りと喜びが深められる環境】とあるように、子育て世代が地域の中でも孤立することなく、子育てに対する不安が軽減され、社会全体で支える環境が充実していることが大切であることから、それを【笑顔で子育てできる環境】と表現している。
- ・基本方針2の【先進的な教育】とは、AI、Society5.0、科学技術の進展、グローバル化に対応した教育が考えられる。本市ではオリンピックを契機として、ホストタウンであるニュージーランドとの交流を契機に、両国の学校同士のオンライン交流や互いに留学を受け入れるなど、子どもたちのグローバル化に向けた取組も積極的に行っていて、先進的な取組の一例と考えている。また、学んだ英語をいかして、留学やオンライン交流ができる機会があることは、いつでもチャレンジできる環境と言える。

【教育総務課長】

- ・基本方針5の【快適に学べる質の高い学習環境】とは、ソフトとハード両面の安全対策を考えている。ソフト面ではインターナショナルセーフスクールの認証もあり、安心安全な環境は他市に負けない環境が整っている。ハード面では、経年劣化が進んでいる校舎や学校施設の更新、冷房設備設置やトイレ改修など、子どもたちが快適な環境で充実した学習に取り組めることを示している。

#### 【杉山委員】

- ・教育大綱は教育委員会としても意識して取り組んでいきたい。
- ・教育大綱がお飾りではなく、具体性を持って子どもたちや保護者の方、地域の方に届くような形で示せると良い。

#### 【企画政策課長】

- ・現教育大綱でもそれぞれの基本理念、基本目標、基本方針の解説を作成している。新しい教育大綱についても内容が伝わるよう解説を作成する。

#### 【山本委員】

- ・新しい教育大綱の素案について、厚木市らしいと感じた。
- ・基本目標の【3つの「約束」】、【3つの「力」の育成】について、3と3が対になっていて良いと感じた。しかし、上下で見ると【伸ばす】の下には【創造】、【支える】の下には【共生】を配置した方が関連性が高く、つながりがあって言葉の力が増す印象を持った。
- ・【3つの「力」の育成】については、挑戦力や共生力のように、それぞれに「力」という字を入れた方がより力強いメッセージなるような印象を持った。
- ・基本方針7の【子どもたちを育みます】については、「人を育む」、「人を育てる」の言葉を比べると「子どもたちを育てます」の方が馴染みやすいような印象を持った。
- ・基本方針3の【「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をバランス良く育み】とは、具体的にどのようなイメージか。

#### 【企画政策課長】

- ・基本目標【3つの「約束」】の【伸ばす】と【支える】の順番を入れ替えることについてのご指摘は対応したいと思う。
- ・【3つの「力」の育成】の、それぞれに「力」を付け、挑戦力、共生力、創造力とすることについて、委員の皆さんに議論いただきたい。

#### 【教育総務課長】

- ・基本方針3の、【確かな学力】の一例としては、ICT環境や情報通信機器を活用し、主体的に深い学びを推進したいと考えている。【豊かな心】については、自己肯定感を高めるため、道徳教育を通じて、仲間と心を通わす大切さを示している。【健やかな体】は、食育やスポーツの機会の充実を考えている。
- ・現在策定中の教育振興基本計画の中で基本方針を達成するための具体的な事

業について、定めていくところである。

- ・基本方針7の【子どもたちを育みます】については、昨年度に行った職員プロジェクトや策定委員会の提言に基づいて現在の表現になっている。
- ・基本目標の【挑戦】【共生】【創造】については、議論の中で「挑戦力」など「力」を入れる意見もあったが、インパクトを強調する意味も含めて名詞止めにしてるのが現状の書き方である。

#### 【門田委員】

- ・新たな教育大綱の素案については、今後の6年間を支える、より良いものがあったなという印象を持った。子どもたちにもわかりやすいし、各学校でも生涯教育でもこのまま使えそうだという感想だ。
- ・基本目標の【つなぐ】と【挑戦】、【伸ばす】と【創造】、【支える】と【共生】を対にした配置にした方が収まりが良い印象を持った。
- ・基本方針10の【スポーツ・レクリエーション活動の充実】については、高齢者にとっても親しみが持てるようレクリエーションという言葉が入って良いと思う。

#### 【森委員】

- ・基本目標の【3つの「力」の育成】の「の育成」は不要に思う。上の【3つの「約束」】に合わせて、【3つの「力」】の方が良いのではないか。
- ・新たに加わった【支える】の説明文は見直しが必要だと思う。【つなぐ】、【伸ばす】は、それぞれの説明の文末で【つなぐ教育の実現】、【伸ばす教育の実現】となっている。現状の【支える】の説明の文末は【誰一人取り残さない教育の実現】となっており、SDGsを意識しすぎのように思う。【支える】の趣旨としては、子どもたちを健やかに育てるためにハード面もソフト面も環境を整えること、地域の人々と協働して支えるというものなので、説明の文末は「支える教育の実現」が良いと思う。
- ・一案としては「安心安全で快適な環境を整備し、一人一人の健やかな心身の成長を支える教育の実現」はいかがか。
- ・「誰一人取り残さない」というのは、解説の中でSDGsを示せば良いと思う。
- ・基本目標のそれぞれの説明文について、文頭が1マス空ける必要はないように思う。
- ・基本方針4は、教員の多忙化解消についてのことだが、教職員が子どもたちに向き合える時間を確保し、自信を持って安心して仕事に当たることができる時間を確保するということが本質だと思う。そのためには、教職員が現在受け

持っている仕事を減らす、分散することが必要である。

- ・基本方針2の【いつでもチャレンジできる環境をつくります】は、子どもたちがやりたい・知りたいと思ったときに取り組めるハード面、ソフト面の環境整備は大きな目標であり、とても良いと思う。子どもたちが先進的な技術に触れ合う際に、それを扱い、指導する者を育成することも重要であり、今後、市が力を入れていかなければならない部分である。

- ・基本方針7の【子どもたちを育みます】については、一般的には「育むために～します」という使い方が多い。

#### 【企画政策課長】

- ・基本目標の【挑戦】【共生】【創造】については、現在策定中の教育振興基本計画との整合を図りながら、今後の会議でお示ししたい。

#### 【教育総務課長】

- ・基本方針7の【子どもたちを育みます】の表現については、教育振興基本計画を策定していく中で協議事項としていきます。

#### 【森委員】

- ・基本方針4について、教職員の多忙化については逼迫した課題である。
- ・教職員への支援体制は「充実」ではなく「確立」していかなければならない。
- ・教職員の多忙化の解消は、新しい教育大綱の6年間で、一步も二歩も前進させる強い意志が必要だ。
- ・学校教育には指導者が必ず必要で、指導者を大切にすることは当然のことだ。

#### 【杉山委員】

- ・基本方針3の【確かな学力】【豊かな心】【健やかな体】は、以前の学習指導要領改定時のキーワードであった「生きる力」について説明する3本柱だったと記憶している。基本方針3の中で「生きる力」について触れても良いと思う。

#### 【曾田教育長】

- ・基本方針3の【確かな学力】【豊かな心】【健やかな体】は「生きる力」を構成するもので、どれかをでなくバランスよく育ていかなければならない。

#### 【杉山委員】

・基本方針3の【確かな学力】【豊かな心】【健やかな体】は「生きる力」の3つの構成要素であるので、基本方針3の中で二重確固を付けて「生きる力」を入れるなど、表示の仕方の工夫も考えられるが、基本的には現状のままで良いと思う。

【小林市長】

・新たな教育大綱の6年間という期間はいかがか。

【杉山委員】

・基本方針9の【生涯にわたって学べる機会の充実を図ります。】とあるが、生涯学習社会は、いつでも・どこでも・だれでも学べることに加え、学んだ成果が発表できる環境が整っている必要だ。

・ある程度、時間をかけて取り組んだ方が良いと思うので、3年間でなく6年間の期間にすることは賛成だ。

【山本委員】

・基本方針10の【スポーツ・レクリエーション活動の充実】について、「スポーツ」の定義は難しく、学者の数だけ定義があると言われている。

・現在のスポーツの定義としては、競技スポーツと呼ばれるアスレチックスポーツとレクリエーションスポーツの2つがある。前者が固いスポーツで後者が柔らかいスポーツである。

・この考えに基づいて、基本方針10では【スポーツ・レクリエーション活動】ではなく「スポーツ活動」とし言葉をコンパクトにしてはいかがか。

・ただ、レクリエーションもスポーツの大切な要素なので、解説の中は、アスレチックスポーツ、レクリエーションスポーツをそれぞれ説明してもらおうと良い。

【小林市長】

・他に意見はいかがか。

【各委員】

(意見なし)

【小林市長】

・新たな教育大綱は今年度一年間かけてつくっていくので、今後の会議の場でも活発な意見をもらいたい。

(3) 新型コロナウイルス感染症対策に伴う課題について

新型コロナウイルス感染症に係る市の対策全般について、企画政策課長から資料3-1に基づき説明。

新型コロナウイルス感染症に係る小学校、中学校における課題について、教育総務課長から資料3-2に基づき説明。

GIGAスクール構想の実現に向けた厚木市の取組について、学校施設課長から資料3-3に基づき説明。

**【企画政策課長】**

資料3-1に基づき説明

**【教育総務課長】**

資料3-2に基づき説明

**【学校施設課長】**

資料3-3に基づき説明

**【小林市長】**

・新型コロナウイルス感染症対策については、国費で賄う、国民一人あたり10万円を給付する特別定額給付金の予算も含めて、厚木市では総額約257億円の予算を確保している。

・中小企業や個人事業主を含む事業所は、市内に約9,600あり、近隣他市と比較しても多いことが特徴である。

・厚木市の経済を支えているこれら事業所がコロナウイルスの影響で大変苦しんでいて、国費による支援事業とは別に範囲を広げて市単独事業として支援メニューを用意している。

・市内には5大学あるが、学生がアルバイトができずに収入が減る中で、オンライン学習のための準備費用が必要になるなど、学びの補助として、市単独で単身世帯の学生に一人5万円を給付していることも、オリジナリティのある事業である。

・これらの支援には、厚木市が積み立ててきた財源を充てながら、国費をできるだけ確保できるようにして財源を捻出している。

- ・今後も継続的な支援が見込まれ、市民の命、生活を守っていかなければならない。

- ・厚木市立病院は県央地区全体の感染症対応しており、感染症病床を受け持っている病院として、神奈川県医療体制を支えるため、病床を6床から22床に増やしている。

- ・感染症病床としての対応は懸命にしながらも、地域の公立病院としての役割は果たしていかなければならない。

- ・入院、手術を抑制し、外来患者が減っているため非常に難しい経営状況になっており、強い危機意識を持っている。

- ・国や県に対し、直接会って市立病院の危機的な状況を伝え、支援を要請しているが、現状としては、国の補正予算の中で市に割り当てられる財源は多くない。不足する部分は市で負担しなければならない状況にある。

- ・GIGAスクールの関係では、文部科学省の指導により、今年度中に児童・生徒一人一台のタブレット端末の用意が必要になった。

- ・子どもたち一人一台のタブレット端末を配備する環境を整えるには15億円の事業費が必要になる。

- ・新たな時代への対応に向けた、子どもたちへの投資をしていかなければならず、タブレット端末の配備によって教育の手法が変化する中、子どもたちの学びに役立ててほしい。

- ・一方でタブレット端末には多額の事業費が掛かることは事実である。

- ・教育委員会にも、仕事の見直しや工夫が必要で、タブレット端末の配備に向けた事業のスクラップも検討してもらわなければならない。

- ・学校施設や教育人材を含めて、子どもたちには多くの投資をしている。

- ・財源とのバランスを取りながら、時機を逸せずに必要な事業費を捻出していかなければならない。

#### 【教育総務部長】

- ・児童・生徒一人一台のタブレット端末の配備計画は、昨年12月に決まったが、当初5年間の整備計画だった。

- ・緊急事態宣言を受けて、8都道府県は今年度中の実現をするよう国の方針が示された。これに向けて県内各市で対応しているところだ。

- ・タブレット端末の配備には多額の経費が掛かるが、教育委員会としても、今までの事業を見直して、少しでも財源を捻出していくよう努めている。



### 【学校教育部長】

- ・これまでは40台のタブレット端末が学校に配備されており、様々な授業で活用していた。今回のGIGAスクール構想では、これに加えてさらにタブレット端末が配備されるものだ。
- ・教職員も生徒と一緒に学びながら、授業の中で自分の発想でテーマを設定し、タブレット端末を活用していかなければならず、授業を変えていく努力をしていかなければならない。

### 【杉山委員】

- ・新型コロナウイルス感染症対策として、市民に対して様々な支援策を打ち出していると改めて感じた。市内の経済活動も停滞する中で、行政も財源確保に苦労している様子を伺った。
- ・教育の面で考えると、オンライン授業やタブレット端末の活用で、従来の授業のやり方が変わってくることになる。学校へ行きにくいと感じていた子どもたちも、授業に参加できたり、長期休暇中の学びのフォローもできたりとメリットも考えられる。
- ・一方で、変えてはいけない部分もあり、バランスを取ることも大切だ。
- ・教職員への研修など、スピーディーに対応しなければならない部分もあると思うので、現場の意見を聞きながら、タブレット端末を備えてあげてほしいと思う。

### 【門田委員】

- ・小林市長が国や県に対して新型コロナウイルス感染症対策の要望活動を行っていることを新聞報道で見た。
- ・新型コロナウイルス対策として、子どもたちをはじめ、保護者たちに対しても支援策を講じていることは大変ありがたいと思う。感謝の気持ちを伝えたい。
- ・本日、朝、学校や児童館に立ち寄り現場の話を聞いてきたところ、市からマスクや消毒液の確保など多くのサポートがあり、感謝している旨話されていた。
- ・学校現場では、子どもたちによる教室の掃除ができず、教職員が対応しており苦労しているようだ。
- ・市が多くの財源を用意するには大変な苦労をしていると察するが、子どもたちのことを第一に先見の明を持って支援策を講じていることに、市民の一人として感謝を伝えたい。

**【曾田教育長】**

- ・これまでも、教育環境日本一を目指して、教育関係の予算は他市と比べても負けていない予算を付けている。
- ・GIGAスクール構想の実現のため、児童・生徒一人一台のタブレット端末の配備については、予算が付いて当たり前という感覚ではいけないと感じている。
- ・タブレット端末の配備は、これからの子どもたちの学習環境の整備として必要な対策である。これを活用し、学校教育の最前線にいる教職員は、強い意識、使命を持って、子どもたちにこれからの社会を生き抜いて行ける力を身に付けさせなければならない。
- ・これには多額の事業費が掛かることも事実であり、本気になって学びの形態を変えていかなければならない。従来の黒板にチョークだけの授業から抜け出せない教職員ではなく、積極的にタブレット端末を授業に取り入れていく姿勢が問われている。
- ・子どもたちの学びにタブレット端末を取り入れることの効果を説得力を持って説明できなければ、事業化に向けた予算は付いてこない。
- ・教育に関する予算は、新たなものが積み重なって、これまでもビルド・ビルド・ビルドで来ており、スクラップの部分非常に少ない。今回のタブレット端末配備を契機にゼロベースで事業の見直しが必要だ。
- ・これからの社会の変化に柔軟に対応できる力を身に付けるため、児童・生徒一人一台のタブレット端末の配備については必要なことだ。一方で、これを導入するためには教職員も学びの形態を本気になって変えていくことをしないと、教育関係者には伝えていきたい。

**【小林市長】**

- ・他に意見はよろしいか。

**【各委員】**

(意見なし)

**【小林市長】**

- ・それでは、進行を事務局に返す。

**【事務局】**

- ・教育大綱のついていただいた様々な意見を次回会議にいかしたい。  
これをもって第1回会議を終了する。

以上